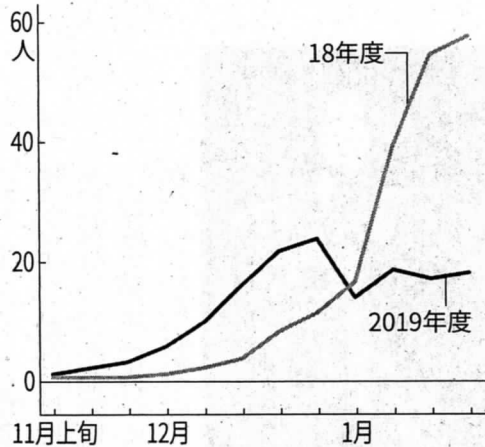


新型肺炎で衛生意識向上？

インフル患者 異例の低水準

インフルエンザ患者数の週別推移



(注)患者数は1医療機関あたり
(出所)国立感染症研究所

1月のインフルエンザの流行が過去10年間で2番目に低い水準になっている。今シーズンは例年より1カ月早い11月上旬に流行入りし、患者数は増えていたが、さらに増加するはずの年明けに患者数が増えていない。厚生労働省の担当者は「新型コロナウイルスによる肺炎を警戒し、手洗いや」とみている。

今シーズンは流行入りが

1月、過去10年で2番目に低く

例年より早かった。通常より1カ月早い11月上旬に1施設あたり1人を超えて流行入りした。その後も増え続け、12月には早くも「今後4週間以内は大流行が発生する可能性がある」とする「注意報」が出ていた。

12月下旬までは患者数が過去10年間で最も多く、年末に過去2番目になったものの、学校が再開する年明け以降の大流行の恐れが出ていた。

12月30日～1月5日は年末年始で患者数が13・93人と前週より9・31人減ったが、通常は患者数が急増して大流行の目安となる1施設あたり30人を超えるどころか、今シーズンは20人以下の水準で推移している。

調剤情報から先行して患者数を推定する「薬局サーベイランス」でも2月3日まで減少傾向が続いている。薬局サーベイランスの4日の日報は流行は継続しており引き続き注意が必要とする一方、減少傾向は継続していく可能性が高いとみている。